



偉人の足跡 / 新野 進一郎 [明治43年～平成2年]

昭和12年に伊予鉄道に入社、のちに11代社長になりました。市内電車や郊外電車、バス・タクシーだけでなく船や飛行機など、交通網の発達を総合的にとらえ、道後温泉や松山市駅、松山駅

など交通の拠点を整備しました。戦前戦後から今日に至るまでのまちづくりに、交通・経済両面から取り組み、公共的・社会的責務を果たすという信念を貫きました。



昭和41年の松山市駅前の風景

- 9. 第1回松山おどり
- 10. 生石小学校で開かれた初の一日模擬市議会。市民約250人が参加
- 11. 北部松山環状線が開通
- 12. 市政に関心を深めてもらおうと、市役所で開かれた子供模擬市議会
- 13. 復元を進めていた松山城小天守の上棟式
- 14. 石手川ダム完成式
- 15. サクラメント市でアイゼンバーグ市長と姉妹都市の調印
- 16. 道後公園に子規記念博物館が開館

- 1. 第8回国民体育大会、大街道二丁目の歓迎ぶり
- 2. 城山に開通したロープウェイ
- 3. 昭和36年4月、全日空の松山～大分間航空路の直行開始
- 4. 三津で開かれた港まつり
- 5. 市制施行70周年記念式典
- 6. 県庁前を出発するオリンピック聖火
- 7. 市民会館の落成を祝う式典
- 8. 子規・漱石・極堂生誕百年を記念して開かれた第1回全国俳句大会

昭和63年 (一九八八)	昭和62年 (一九八七)	昭和60年 (一九八五)	昭和59年 (一九八四)	昭和58年 (一九八三)	昭和56年 (一九八一)	昭和55年 (一九八〇)	昭和54年 (一九七九)	昭和53年 (一九七八)	昭和51年 (一九七六)	昭和50年 (一九七五)	昭和49年 (一九七四)	昭和48年 (一九七三)	昭和47年 (一九七二)	昭和43年 (一九六八)	昭和42年 (一九六七)	昭和41年 (一九六六)	昭和40年 (一九六五)	昭和39年 (一九六四)	昭和37年 (一九六二)	昭和36年 (一九六一)	昭和34年 (一九五九)	昭和33年 (一九五八)	昭和30年 (一九五五)	昭和29年 (一九五四)	昭和28年 (一九五三)		
10・8 16・1	3・5	1・4	10・9	4・2	9・8 7・24 6・2	8・27	2・21	3・31	7・24	11・4 4・9 4・1	11・3 3・27	3・3	4・4 4・1 28	10・10 10・25 5・27 5・22	9・3 15・27 3・20	9・8 17・12 7・13	7・10	9・12	6・28	5・3 4・1	12・15	4・10	4・26	8・7 5・1	10・1 2・1	10・9 22・30 3・1	
第一回「坊っちゃん文学賞」募集開始 ドイツのフライブルク市で姉妹都市提携調印	総合ミニニテセンターの全施設が完成し落成式	杖ノ淵が日本名水百選に選定	総合ミニニテセンター体育館の落成式	第一回松山春まつりを開催	子規記念博物館が開館 中央卸売市場中央市場花き部落落成式 子供模擬市議会開催 アメリカのサクラメント市と姉妹都市提携調印 中央卸売市場水産市場開場式	三津の渡しに新造船が運航	「松山市の歌」を制定	北部松山環状線が開通	第一回市民大清掃を実施	消防局の新庁舎が落成	南部環状線が開通 新市庁舎の落成式	市急患医療センターを設置 中央卸売市場の開場式	石手川ダム完成式	市花に「つばき」を制定 市青少年センターが完成	高浜に観光港落成 松山市議会会議規則制定 点字広報紙「ひかり」を発行	高浜に観光港落成 松山市議会会議規則制定 点字広報紙「ひかり」を発行	市民会館の落成式	オリンピックの聖火が別府港から高浜港に着き本県入り	市議会全国初の公明選挙都市宣言決議を可決	石井村を市に編入 市庁舎別館の落成式、市制七十年式典を開催	小野村を市に編入	浮穴村を市に編入	国際観光温泉文化都市松山の市民憲章を制定	松山城に市営のロープウェイが開通	久米村、湯山村、伊台村、五明村を市に編入	興居島村を市に編入 余土村を市に編入	松山上水道工事が完成し、旧市内の一部に通水開始 道後温泉西湯・砂湯を改築し、椿の湯と改称 天皇陛下(昭和天皇・皇后陛下(香淳皇后))をお迎えして、第八回国民体育大会開会式を堀之内競技場で開催(10・26、四国四県共同開催)